

官民連携によるエマージェンシーエネルギープロジェクト 第3報 “太陽と風で発電” 実験機設置へ！

昨年度からスタートした横浜市と横浜スマートコミュニティ^(※1)（以下、YSC）が共同で進める『エマージェンシーエネルギープロジェクト^(※2)』について、再生可能エネルギーを活用したバックアップ電源装置を現地に設置し、実証実験を始めます。

実験1（水防設備プロジェクト）

市民の皆様に安全を提供する水防設備（警報装置等）の機能強化を目指し、発電装置及び蓄電池を備えたバックアップ電源装置（新規開発）の実証実験を『奈良川恩田駅前水辺広場（青葉区恩田町）』で行います。

実験2（遊水地管理棟プロジェクト）

洪水による被害を軽減する河川遊水地の施設機能強化を目指し、YSC が tvk ハウジングプラザ横浜の実験棟に設置している「エネルギー制御システム」を利用したバックアップ電源装置の実証実験を『宇田川遊水地（戸塚区汲沢町）』で行います。

●設置のイメージ



●今後のスケジュール

平成 27 年 10 月～12 月 設置工事等
平成 28 年 1 月～ 実証実験

●これまでの動き

・水防設備プロジェクト

平成 26 年 9 月に YSC と基本協定を結び、バックアップ電源装置の仕様検討を行いました。

バックアップ電源装置は、風力発電と太陽光発電を連携した発電装置と蓄電池、発電状況に応じて電力供給元を切り替える制御装置（新規開発）という構成となっています。

平成 27 年 1 月より制御装置の開発を進めており、合わせて、実験の進め方について検討を行ってきました。

・遊水地管理棟プロジェクト

平成 27 年 1 月に YSC と基本協定を結び、エネルギー制御システムに合わせた発電・蓄電装置の仕様検討を行いました。

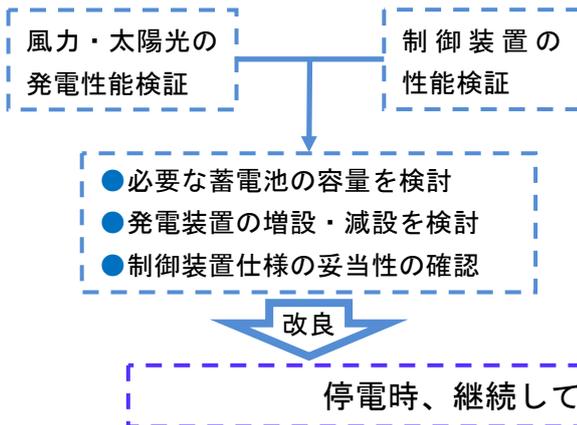
バックアップ電源装置は、既存のエネルギー制御システムに太陽光発電、蓄電池という構成になっています。

合わせて、実験の進め方についても検討を行ってきました。

●実証実験の流れ

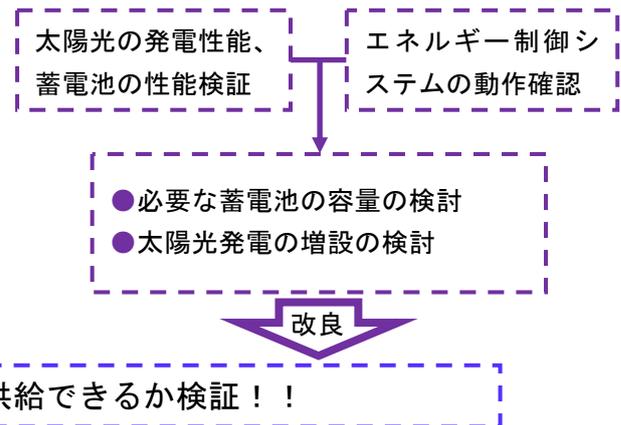
・水防設備プロジェクト

まず、発電・制御装置を設置し、性能検証及び最適な組み合わせの検討を実施、結果に基づき改良を行います。その後、停電時に継続して電力供給できるか確かめます。



・遊水地管理棟プロジェクト

まず、小規模で設置し、性能検証を行います。その後、実際に必要な規模への改良を行い、実証実験を進めます。



※1 横浜スマートコミュニティ（YSC）

効率的なエネルギー使用や複数の建物でエネルギーを相互融通するエネルギーマネジメントシステムの構築に向けた研究開発・実証実験を行う企業コンソーシアムです。横浜市は横浜市内中小企業の振興及び経済活性化の推進を目的として、YSC と協力協定を締結しています。

設立：平成 23 年 6 月

代表：有馬仁志（有馬マネジメントデザイン(株) 代表取締役社長）

会員数：101 社 5 団体（うち市内企業 25 社 うち中小企業 17 社）＜平成 27 年 9 月現在＞

※2 エマージェンシーエネルギープロジェクト

水防設備（警報装置等）や遊水地管理棟等において、再生可能エネルギー（自然エネルギー）を活用した電力を供給することで、緊急時にも安定した水防活動等を行える体制づくりを目的とし、環境・エネルギーに関する技術をもった複数企業からなる YSC と横浜市が基本協定を締結して 2 つのプロジェクトを進めています。

①水防設備プロジェクト（平成 26 年 9 月 19 日、基本協定を締結し、記者発表を実施）

②遊水地管理棟プロジェクト（平成 27 年 1 月 30 日、基本協定を締結し、記者発表を実施）

お問合せ先		
道路局河川計画課長	仲澤 克彦	Tel 045-671-2818